

November 11, 2021

**【前日の為替概況】ドル円、5日ぶり反発 CPI予想を上回り入札も低調で米長期金利が上昇**

10日のニューヨーク外国為替市場でドル円は5営業日ぶりに反発。終値は113.91円と前営業日NY終値(112.87円)と比べて1円04銭程度のドル高水準だった。10月米消費者物価指数(CPI)が予想を上回ったことが分かると、米長期金利の上昇とともに全般ドル買いが先行。米30年債入札が「低調」と受け止められ、米長期金利が上昇幅を拡大するとドル買いが加速し、3時過ぎには一時114.01円と日通し高値を付けた。その後の下押しも113.73円付近にとどまった。

なお、米労働省が発表した10月米CPIは前年同月比で6.2%上昇と9月の5.4%から加速し、1990年11月以来約31年ぶりの6%台乗せを記録した。

ユーロドルは4日ぶりに反落。終値は1.1479ドルと前営業日NY終値(1.1593ドル)と比べて0.0114ドル程度のユーロ安水準だった。予想を上回る米インフレ指標を受けて米早期利上げ観測が高まると、全般ドル買いが優勢となった。米長期金利の指標である米10年債利回りが1.58%台まで上昇するとドル買いが活発化し、6時30分過ぎには一時1.1476ドルと昨年7月以来の安値を更新した。

主要通貨に対するドルの値動きを示すドルインデックスも一時94.90と昨年7月以来の高値を付けた。

ユーロ円は小幅ながら続落。終値は130.75円と前営業日NY終値(130.86円)と比べて11銭程度のユーロ安水準となった。予想を上回る米物価指標を受けてドル円が上昇するとユーロ円も買いが先行し、24時過ぎに一時131.42円と本日高値を更新した。ただ、そのあとはユーロドルの下落につれた売りが優勢となり、5時過ぎに130.65円とアジア時間に付けた日通し安値に面合わせした。

**【本日の東京為替見通し】ドル円はレンジに逆戻り、豪雇用統計の労働参加率に要注目**

本日の東京時間のドル円は再びレンジ相場となるか。昨日の大きな動きで、再びドル円は113-114円台のレンジ相場に戻ったといえそう。バイデン米大統領が米国の消費者物価が高いことを懸念していることもあり、米金利が高い水準を維持していることで、本来ならばドルがまだ強含む地合いになるだろうが、114円台は依然として本邦勢の売りが出てくる可能性が高い。市場を動意づけるのは米金利の動きとなっているが、東京市場ではトレンドを作るのが難しいだけでなく、本日は米債券市場がベテランズデーのため休場であることで、更なる大きな動きを期待するのも難しいか。

本日のアジア時間での注目経済指標は、豪州の10月雇用統計になる。市場予想は失業率が4.8%、新規雇用者数は5.00万人となっている。しかし、より注目されるのが労働参加率だ。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、就活を諦めた労働者が増加傾向にあり、9月は64.5%まで低下している。ここ最近の失業率は安定していることもあり、もし労働参加率に改善の兆候が見られた場合は、インフレ懸念もあることで市場が豪準備銀行(RBA)に対する利上げ期待を持つことになりそう。

なお、中国不動産開発大手・中国恒大集団は期限が過ぎていた3本の社債の金利を支払ったと報道されていることで、このまま中国の不動産問題が大きくは広がらずに済むのか注目される。

**【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間****国内>**

- 008:50 ◇ 10月企業物価指数(予想:前月比0.4%/前年比7.0%)
- 008:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況(週次・報告機関ベース)

**<海外>**

- 009:01 ◇ 10月英王立公認不動産鑑定士協会(RICS)住宅価格(予想:65)
- 009:30 ◎ 10月豪雇用統計(予想:失業率4.8%/新規雇用者数5.00万人)
- 016:00 ☆ 9月英国内総生産(GDP、予想:前月比0.4%)
- 016:00 ☆ 7-9月期英GDP速報値(予想:前期比1.5%/前年比6.8%)
- 016:00 ◎ 9月英鉱工業生産(予想:前月比0.2%/前年比3.1%)
- 016:00 ◎ 9月英製造業生産高(予想:前月比0.2%)

- 16:00 ◇ 9月英商品貿易収支／英貿易収支（予想：143.00億ポンドの赤字／32.56億ポンドの赤字）
- 16:00 ◇ 9月トルコ経常収支（予想：17.0億ドルの黒字）
- 18:00 ◎ マクルーフ・アイルランド中銀総裁、講演
- 19:45 ◎ マン英中銀金融政策委員会（MPC）委員、講演
- 21:00 ◎ 9月ブラジル小売売上高指数（予想：前年同月比▲4.3%）
- 21:00 ◇ 9月メキシコ鉱工業生産（季調済、予想：前月比0.1%）
- 12日 01:00 ◎ シュナーベル欧州中央銀行（ECB）専務理事、講演
- 12日 04:00 ◎ メキシコ中銀、政策金利発表（予想：5.00%に引き上げ）
- 12日 05:00 ◎ デコス・スペイン中銀総裁、講演
- 米国（ベテランズデー）、債券市場が休場
- ポーランド（独立記念日）、カナダ（リメンバランス・デー）、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

10日 08:27 イエレン米財務長官

「債務上限の引き上げがないならリセッションを警告」

「債務上限法案が可決することを期待」

「インフレはFRBによって既に注視されている」

10日 09:44 ブラード米セントルイス連銀総裁

「来年2回の利上げを予想」

「経済データに基づいており、予測は時間の経過とともに変化する可能性」

「我々に出来ることは来春の状況を評価し、現在の状況を確認すること」

10日 23:55 バイデン米大統領

「インフレ抑制を最優先課題とする」

「ホワイトハウスの国家経済会議に、エネルギーコスト削減のための対策を求める」

「FRBの独立性を堅持」

11日 01:10 デイリー米サンフランシスコ連銀総裁

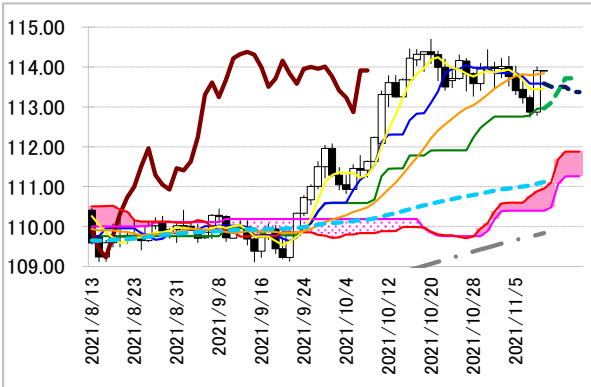
「一時的とはいえ、高インフレは痛い」

「FRBが利上げの道筋や時期を変更するのは時期尚早」

「私はインフレ期待を見ている」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

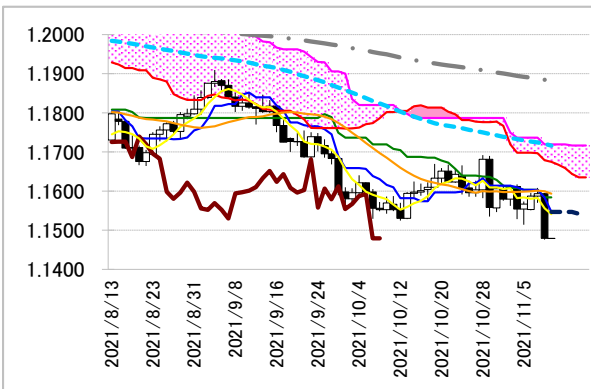


### <ドル円=低下傾向の転換線を追うような反動安もあるか>

大陽線引け。一時 114.01 円と、1 円以上の値幅となる陽線を形成した。

大幅高の反動も想定され、低下傾向の一目均衡表・転換線 113.59 円の動きを追うような反落もあるか。しかし、下値 112.97 円から上昇が続く見込みの一目・基準線が支えとなるため、上昇幅を帳消しにするような下落はないだろう。

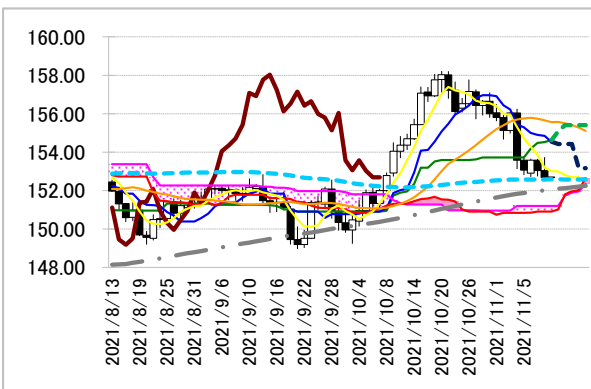
レジスタンス 2 114.70(10/20 高値=年初来高値)  
レジスタンス 1 114.28(11/4 高値)  
前日終値 113.91  
サポート 1 113.52(11/9-10 上昇幅の 61.8%押し)



### <ユーロドル=転換線の低下再開とともに再び下攻め>

大陰線引け。1.1470 ドル台と、昨年 7 月以来の安値水準での推移となった。一目均衡表・転換線の低下再開とともに再び下攻めも始まった格好。抵抗となる同線からやや下方へかい離れた。自律反発の余地もありそうに見えるが、転換線以外に 5 日安値 1.1514 ドルや 10 月 29 日安値 1.1535 ドルといったかつてのレンジ下限が抵抗となる可能性がある。安値圏で下値を探る展開が続くようだ。

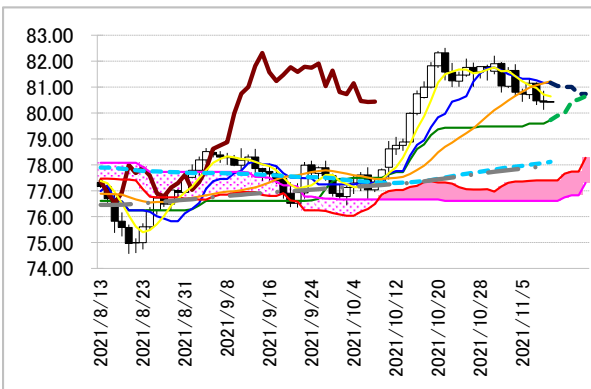
レジスタンス 1 1.1547(日足一目均衡表・転換線)  
前日終値 1.1479  
サポート 1 1.1423(2020/7/21 安値)



### <ポンド円=90・200 日線を試すような下値を探る展開予想>

上影陰線引け。一時 153.74 円へ上振れた。しかし、足元の安値もみ合いレンジ上限となる 5 日高値 153.78 円手前で押し返され、152 円台で NY を引けた。5 日移動平均線を上回る水準の重さも懸念され、本日 153 円付近へ低下した同線が大台の回復を妨げそう。152.59 円前後で推移する 90 日線や、相場の強弱を判断する際の重要な節目 200 日線 152.06 円を試すような下値を探る展開が予想される。

レジスタンス 1 153.42(ピボット・レジスタンス 1)  
前日終値 152.69  
サポート 1 152.06(200 日移動平均線)



### <NZ ドル円=上昇傾向の基準線のサポート期待>

極小陰線引け。低下傾向の一目均衡表・転換線の抵抗を上値に控えた重い推移が続き、同・基準線に近づいた。5 日移動平均線の抵抗とともない下値を探る展開が懸念される。同線は本日 80.64 円前後で推移。ただ、基準線が本日 79.73 円まで上昇し、今後も 80 円台へ切り上がる見込みであるため、下値余地は狭まりつつあるとみる。

レジスタンス 1 80.86(11/10 高値)  
前日終値 80.42  
サポート 1 80.08(ピボット・サポート 1)

